

第1回 小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画検討委員会 要録

1. 日時

令和元年9月24日(火) 午後2時30分から午後4時30分まで

2. 開催場所

小平市福祉会館第1集会室

3. 出席者

小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画検討委員17名(欠席者2名)

事務局：教育部長、教育指導担当部長、子育て支援課長、家庭支援担当課長、保育課長、保育指導担当課長、障がい者支援課長、健康推進課長、学務課長、教育施策推進担当長、地域学習支援課長、学務課長補佐、指導課指導主事、指導課教育相談担当係長、指導課教育相談担当16名(他、書記としてコンサル1名)

4. 傍聴者

5人

5. 配布資料

- 資料1 小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画検討委員会 設置要綱
- 資料2 小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画検討委員会 委員名簿
- 資料3 小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画策定の基本方針について
- 資料4 小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画 骨格案
- 資料5-1 小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画策定のためのアンケート調査の概要
- 資料5-2 特別支援学級等に関するアンケート調査案
- 資料6 小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画検討委員会予定

6. 議題

- (1)あいさつ
- (2)趣旨説明
- (3)委員自己紹介
- (4)委員長、副委員長選出
- (5)小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画策定の基本方針について
- (6)検討内容
 - ・小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画の基本的な考え方について
 - ・小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画策定のためのアンケート調査について
- (7)今後のスケジュールについて
- (8)事務連絡

7. 会議の概要

- (1)あいさつ
教育部長挨拶
- (2)趣旨説明
〈事務局〉

資料1に基づき、本委員会設置の趣旨説明の他、検討事項(2条)及び会議の公開(6条)について、改めて説明する。

(3) 委員自己紹介

他、事務局紹介をする。

(4) 委員長、副委員長選出

委員長に半澤委員が、副委員長に岩井委員が推薦され、承認された。

(5) 小平市特別支援教育総合推進計画（第二期）前期計画策定の基本方針について

〈事務局〉

資料3に基づき説明する。

《委員》

意見及び質問なし

(6) 検討内容

・小平市特別支援教育総合推進計画（第二期）前期計画の基本的な考え方について

〈事務局〉

資料4に基づき説明する。

《委員》

資料3に「これまでの取組の成果と課題を基に、重点施策や取組の視点等について方向性を定め」という記載があるが、これまでの取組の成果は資料4の「計画の位置づけ」に反映されるという理解で良いか。

〈事務局〉

ご指摘のとおりである。

《委員長》

後期計画において成果があった点、あるいは課題点は第二期前期計画に含まれるため、これから意見を出すうえでも、事務局から後期計画の事業報告等を情報提供してほしい。

〈事務局〉

次回の委員会において、後期計画の成果と課題についてまとめたものを示す予定である。

《委員》

事業の成果をまとめる際の視点が既にあるのであれば、事前に教えていただきたい。予めどういふ視点での成果を提示していただけるのか、市や教育委員会おける考察がと議論も深まると思う。

〈事務局〉

庁内委員会では後期計画について毎年度事業評価をしている。今後委員には、可能な範囲で数値で示し、現状や成果を報告したい。

《委員長》

医学的な立場からどういう視点で見ていくことが必要なのか(他の委員から)ご助言いただきたい。

《委員》

こういう視点では全体として見る必要があるのか、個別に見ることは難しい。検診等を利用することによって、どういうところにつながった、あるいは次のプロセスに至ったかというようなものがあれば、さらに良いと思う。

《委員長》

特別支援教育の体制の整備については、文部科学省が個別の教育支援計画をどのぐらいの割合で作成しているのか、実際に個別支援を受けている子どもが何%になったか、増えているのかといった指標的なものを評価として出している。体制整備がどこまでしっかりしてきたかというようなことは、たぶん一つの大きい指標にはなる。ただ、それは客観的に捉えられない部分があるので、本当に個々の子どもに必要な支援が充実してきたのか、子どもの学力や学校生活に適応して充実した成果が出たか知ることは難しい。そういったところや、児童や保護者の視点で変化があったかという指標や観点もぜひ取り上げていただきたい。第二期前期計画策定において実施する保護者のアンケートには、成果等が伺える設問があることを期待する。

《委員》

総合推進計画後期計画に参加した立場で成果と課題に触れたい。後期計画では、特に視点1「理解・啓発」が最も大切であるというところから具体的な施策の体系に入った。さらに特に重点を置く事業と新規事業に分けたので、この2つの成果がどのぐらい挙がったかを見るのは一つの視点であると思う。

《委員長》

事務局で評価をまとめるときに重点項目等を中心に示していただきたい。

・小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)前期計画策定のためのアンケート調査について

〈事務局〉

資料5-1及び5-2に基づき説明する。

《委員》

基本理念は「すべての子どもたち」とある。固定級・特別支援教室・難聴言語学級の在籍者だけにアンケートを絞ったのは何か理由があるのか。都立小平特別支援学校にも支援シートを活用して小平の子どもたちが入っている。その子どもたちに関してはどのように把握するのか。

〈事務局〉

これまで特別支援に関する保護者向けのアンケートは実施していなかった。初めて実施するため、アンケート対象者に関しては、事務局内において検討した結果、まずは小平市立小・中学校に在籍している保護者の意見を伺うことを考えた。

《委員》

最初に小平市立小・中学校に在籍者からアンケートを実施し、次にアンケート対象を広げるには1年半という計画期間は短い。特に絞るよりはもう少し広くアンケートを取ったほうが良いのではないか。

〈事務局〉

まず、今回のアンケートでは小平市立小中学校に在籍している保護者の方の意見を伺いたい。市民や委員からはこういった場でご意見をいただき、パブリックコメント等で広くご意見をいただくことを考えている。

《委員》

私の子どもは小金井市の支援学校に通っている。基本理念には「すべての子どもたち」と書いてあるが、私の子どもは入っていないのか。

〈事務局〉

今特に関わっているということで今回のアンケート対象を決めたが、もちろん市外の学校に通っている子どもたちも基本理念の対象に入っている。アンケート対象以外の方にはこういった場で意見を聞かせていただきたい。

《委員長》

市外の学校を通して行うアンケート調査は、小平市個人情報保護条例等で問題があるのか。

〈事務局〉

特別支援学校に通っている児童・生徒の情報は調べていなかった。通常学級に在籍し学校生活支援シートを作成している保護者に対しては、目的外使用にあたるので調査が難しかった。

《委員》

保護者としてはぜひ学校生活支援シートを活用ほしいが、活用されていないように思う。学校生活支援シートによる情報共有ができていないか、活用されているか、また活用されていないなら原因までわかるようなアンケートだと良い。

《委員長》

学校生活支援シートは保護者、学校、放課後デイサービス等関係機関との連携において特に重要なキーポイントになる。現在のアンケートには現状追認的な調査項目しかないが、質問内容を精査して、保護者の啓発や協力を図るためにアンケート調査が活用できることが望ましい。

〈事務局〉

設問に学校生活支援シートの活用状況を加えることを検討する。

《委員》

就学支援シートは、特別支援学校から通常学級に行く子どもは全員同じものを使っているのだから、わかりにくいと思うことがある。就学支援シートは学校において、本当に活用されているのだろうか。

〈事務局〉

就学支援シートの活用状況について市内全小学校に調査を実施した結果、新1年生の学級編成時や入学後の学校生活支援シートを作成時に活用している学校が8校、学校生活支援シートの作成時には具体的な活用しなかったが、指導や支援の活用した学校が18校、入学前・入学直後に保護者との面談時に就学支援シートを活用した学校が12校であった。活用されていない数校については、今年度は確実に活用すること、また活用について保護者の方に説明するように学校にお願いしている。

《委員》

今回のアンケートは、第一期後期の計画の評価を受け、新たに第二期の前期計画を作成するための基礎資料としての意味づけということだが、その第一期についての評価を行う項目はどこに該当するのだろうか。また、重点事業等に対する評価の項目が読み取れない。アンケートの取り方として疑問が残る。

〈事務局〉

ご指摘のとおり、実施するアンケートに後期計画の重点事業、新規事業と効果や評価に対する設問について、一致するものはない。設問の3及び4については、現在の学校生活や学級に所属するに至った経緯や背景についての設問であり、後期計画の成果や課題についての設問ではないことが、ご指摘でよくわかった。改めて重点事業や新規事業と整合性が取れる設問を検討していく。特に設問9については文言を精査していきたい。

《委員長》

後期計画の重点事業、新規事業の全ての項目をアンケートにするわけではないこともご理解いただきたい。

《委員》

学習障がいでも通級しているが、4年生になりようやく学校生活支援シートの活用の仕方がわかった。学校生活支援シートは学校によって活用の仕方が違うのではないかと。保護者がシートを更新しても学校側のシートに変化が見られないこともあった。学校生活支援シート配布時の保護者への説明では、学校生活支援シートの在り方や有効に活用されているかわからないため、保護者が学校生活支援シートへの理解や有効に活用されているかというアンケートをとってほしい。

〈事務局〉

保護者の更新に対し、学校が学校生活支援シートへの反映や改善がなされていないことは

申し訳なかった。いただいたご意見や調査で実態を把握したうえで、さらに学校の指導につなげていきたい。

《委員》

アンケートの目的がしっかりわかるように記載してほしい。手段が目的にならないようなアンケートの構成を希望する。

《委員長》

目的が子どもに資するものであること、アンケートはそのための手段であることを前面に打ち出してほしいというご要望だと受け止めた。

《委員》

アンケート対象者のうち、学校生活支援シート並びに個別指導計画を作成しているのは何%か。アンケートの設問6及び7の「知っていますか」という文言は、知らない人を対象にしているように読める。アンケート対象の大多数が学校生活支援シート並びに個別指導計画を利用しているのなら設問には意味がない。次の段階が重要になるのではないか。

〈事務局〉

学校に取ったアンケートによると作成率は100%であるが、保護者がその内容について十分に説明を受けているか計るために「知っていますか」という文言にした。

《委員》

「あなたのお子さんの学校生活支援シートについて知っていますか」あるいは「内容を把握していますか」といった書き方のほうがより適切ではないか。

《委員長》

このアンケートは、現状レベルの把握という意味ではなく、小平市の教育委員会が次の計画でどこまでもっていきたいのか、方向性なり方針で質問を作っていくことが必要だ。このアンケートによって達成されていないところがクローズアップされ、それを次の計画の重点施策に反映していけるような文言、項目を検討していただきたい。

《委員》

こげら就学支援シートはいつからスタートしたのか。開始時期によっては「〇年生以下の方にお聞きします」と聞いたほうが回答側にとって時間の節約になる。

〈事務局〉

こげら就学支援シートは小学校入学前から低学年までの支援につなげるものだ。手元の資料では平成19年度から作成しているので、中学校進学時にも作成している可能性もある。平成19年には市全体の作成部数は32部であるため、その時点で作成した家庭の考えが伺える。

《委員長》

こげら就学支援シートも状況を確認し、効果的なシートの活用につながるような設問項目にするよう検討していただきたい。

《委員》

調査用紙を作成するときには、回答用紙だけを回収し、アンケートの趣旨を記載した案内分は、手元に残せるように工夫してほしい。

《委員》

「すべての子どもたちが生き生きと育つ小平へ」という基本理念なので、アンケートは特別支援学級だけではなく特別支援学校等の様々な方を対象にしてほしい。

《委員長》

学齢期の児童生徒だけでなく、小平市在住の思春期を迎えるお子さんへ必要な支援を想定した学校教育の役割や責任、そういった機関との連携等も課題として取り上げていただくとありがたい。

《委員》

アンケートは「特別支援学級に関するアンケート調査について」というタイトルがついているが、特別支援学級に限るのではなく、これからはインクルーシブな方向で対応していくようにシフトしていくのだから、そういったところを感じ取れるアンケートだとさらにありがたい。

《委員長》

学級の中だけでなく通常級との関わり等に意見が出やすい項目、書き方をするようにアンケートの文言整理を検討してほしい。

《委員》

このアンケートを実施してどうするんだろうという疑問しかわかなかった。子どもが特別支援学級等に在籍している保護者であれば、支援シートや個別指導計画は知っているのが当たり前であるため、設問6及び7は意味がない。支援シートや個別指導計画をどのように活用していくのかが重要である。こげら支援シートは就学時には活用されているが、学年が上がると通常級や通級では活用されていないのではないかと。中学進学時にも継続して支援する体制を整えていただきたい。

《委員》

設問5及び9は「期待することをお答えください」という文言になっているが、今現状の取組について「できているか」「できていないか」にしてほしい。

《委員》

設問9の「関係機関との連携」とは具体的にどの機関を指すのか。

〈事務局〉

医療、福祉といったところを想定している。

《委員》

アンケートは市立の学校の時間を主に聞いているように読めるが、教育は学校だけではない。放課後デイサービス等、関係機関の具体的内容も入れて、それらに対するアンケート項目も入れてほしかった。

《委員》

事務局は、委員の意見をぜひ反映していただきたい。この調査は10月から開始するので、今いただいたご意見を反映したものを事務局が作り、その結果を次回3月に報告する。

アンケートに、児童生徒の男女の区別の必要性も検討していただきたい。

《委員》

修正後のアンケートは、配布前に確認する機会はあるのか。

〈事務局〉

印刷発送の期間が限られているので、アンケート確認については委員長に一任したい。

《委員長》

配布前に委員長、副委員長が確認し、さらに意見を述べることとする。

《委員》

設問5は、最もあてはまるものに○印を付けるのではなく、「期待すること」あるいは「よかったこと」というかたちで、空欄にして意見を書いてもらうほうが保護者が記入しやすいのではないかと。

《委員長》

厳しい意見もあるが、いい成果を挙げているものも多い。お互いに意見を言いながら相互に高め合いよりよいものを目指していきたいので、ご協力いただきたい。

(5) 今後のスケジュールについて

〈事務局〉

資料6に基づき説明する。

(第2回は、令和2年3月16日(月)午後2時30分から午後4時30分開催予定 別途通知)

7. 閉会

委員長より、閉会の宣言